

埼玉医科大学病院ニュース

第 79 号

—メディカルスタッフ特集—



ゆい

患者さんと医療者を結ぶ情報誌

CONTENTS

ページ 2 ～ 4

リハビリテーションセンター紹介

ページ 5 ～ 7

臨床工学部ご紹介

ページ 8 ～ 10

栄養部紹介

ページ 11

アスリート通信

埼玉医科大学グループアスリートクラブ

ページ 12

基本理念

外来受診のご案内

新型コロナウイルス感染症に対する対応

編集後記

外来駐車場のご案内



合言葉は
あなたの幸せが
私たちの幸せです

Your
HAPPINESS
Is Our
HAPPINESS

リハビリテーション センター紹介



リハビリテーションセンター長
篠田 裕介

埼玉医科大学病院ニュースをご覧ください誠にありがとうございます。ここでは埼玉医科大学病院リハビリテーションセンターを紹介させていただきます。リハビリテーションセンターでは、「急性期に特化した集中的・包括的リハビリテーション、そして在宅復帰へ」を基本方針とし、リハビリテーション科医師5名をはじめ、外来担当看護師2名、医局秘書1名、そして、**理学療法士28名、作業療法士15名、言語聴覚士2名のリハビリテーションスタッフ**が勤務しています。リハビリテーションセンターでは、1. 患者さんへの説明と同意に基づいた集中的・包括的リハビリテーション医療の提供、2. 各職種が専門性を活かし、協力のもと、患者さんの日常生活活動の自立を図り、可能な限り在宅復帰を目指すこと、3. 救急医療・高度先進医療にリハビリテーションという付加価値を付けること、4. 臨床・研究・教育を通し、リハスタッフはもちろんのこと他職種の若手スタッフや学生を育てること、5. 地域社会や医学の発展に貢献すること、を目標に日々業務に取り組んでおります。

まずリハビリテーションと聞くと、病院で行われるケガや病気の後の心身機能の改善や機能回復訓練等を思い浮かべると思われますが、本来**リハビリテーションとは、心身機能の改善や機能回復訓練はもとより社会復帰し社会生活を取り戻すまでの過程を意味**しています。近年リハビリテーション医療の領域では、病院や施設の機能により役割が分かれています。埼玉医科大学病院リハビリテーションセンターでは、主に病院で行われる急性期リハビリテーションを担っております。急性期リハビリテーションとは、ケガや病気を発症し数日から1カ月位で行われるリハビリのことを言います。患者さんによっては、生命の危険や急変のリスク、さらに術後の管理のためICUやHCUに入室の段階からでも主科とリハビリテーション科医師の指示のもと、リハビリテーション治療が開始されることがあります。この他、患者さんによっては入院日同日や様々な手術翌日にもリハビリテーション治療が開始されることがあります。このような急性期の早い段階でリハビリを行う意義としては、早期のリハビリテーション治療の開始により早期の機能回復が得られやすくなることはもちろんのこと、廃用（臥床した状態が続くことで起こる関節の拘縮や筋力低下、歩



行困難などの様々な弊害)を予防することにあります。また患者さんによっては、確定診断がつくまでの検査と並行して行われることもあります。さらに大学病院としての特色もあり、抗がん剤投与中の患者さんをはじめ様々な高度な治療と並行してリハビリテーション治療が行われることもあります。2020年の新型コロナウイルス感染拡大においても、たくさんのコロナ患者さんのリハビリテーション治療を行いました。埼玉医科大学病院のリハビリ依頼件数は年々増加傾向にあり、**年間の総処方数約 8900 件、ひと月あたりの平均リハビリテーション治療件数は 7500 件**に及んでいます。以下にリハビリテーションスタッフについて紹介します。

リハビリテーションスタッフの紹介

1) 理学療法士

理学療法士は、リハビリテーションスタッフの中で最も人数が多く、リハビリテーション治療の中核を担う職種です。理学療法士は、リハビリテーションの医師の指示のもとに、**患者さんの関節可動域や筋力・麻痺・痛みなどの心身機能や、基本動作や歩行等の評価を行い、その結果に基づき機能回復のための運動療法**を行います。理学療法士は、治療のゴールの大半で、動作を獲得すること・歩行(移動)を獲得することを目指とすることが多く、患者さんからは「足のリハビリ」と認知されていることが多くあります。当院の理学療法部門は、整形チーム、神経チーム、呼吸チーム、小児チームの4チームで運営しています。整形チームでは、主に整形外科で手術をされた患者さんを中心に運動療法を行います。整形外科では、術後のプログラムがあり、手術翌日から理学療法が開始となり、10日前後での退院を目指します。神経チームでは、脳や脊髄など神経系の疾患のある患者さんを主に担当しています。脳卒中であれば入院同日から翌日には理学療法が開始されます。症状を有しているものの診断のつかない患者さんは、検査と並行しながら理学療法が行われます。神経系の患者さんも可能な限り自宅退院を目指しますが、神経の疾患では、長期のリハビリ期間を要することが多く、このような場合には回復期リハビリテーション病院へ転院となることがあります。呼吸器チームでは、呼吸器疾患の患者さんや消化器外科術後の患者さんを主に担当しています。ここでは全身状態の管理のためICUに入室中の患者さんも多く、呼吸練習や病棟看護師等の協力のもと、全身状態を確認しながら早期から離床を図っていきます。最後に小児チームでは、入院早期からお子さんの運動発達を促し、外来でも継続して行っています。必要に応じ、発達を促すための装具や歩行器・車いすなどの検討も行います。その他、病院外では国内外のスポーツ大会(オリンピックなど)やパラスポーツ大会のメディカルサポート、毛呂山町の介護予防事業などで活躍しているスタッフも多くいます。

(文章:理学療法士 小峰美仁)

2) 作業療法士

作業療法士は、**日常生活動作(食事・整容・更衣・トイレ・入浴)、家事動作の再獲得、職業復帰などを目標に、リハビリテーション治療**を行います。これらの動作は主に手を使用しますので、「手のリハビリ」と認知されていることが多いです。作業療法士は、手の機能(関節可動域・筋力・感覚など)



だけではなく、効率よく作業を進めるために必要な遂行機能や、注意力、記憶力などの高次脳機能も、評価・治療を行います。実際に日常生活動作、洗濯や調理などの家事動作を行い、動作獲得のための練習や、安全に行えるように環境調整をしたり、必要な道具（自助具などの福祉用具）の紹介なども行います。当院の作業療法部門では、内科チーム、整形チームの2チームで運営しています。内科チームは、神経系の疾患を中心に内科系の疾患を担当し、整形チームでは上肢機能障害のある頸の手術後や、骨折や靱帯の手術後の整形疾患を担当しています。入院中の患者さんを中心に行うことが多いですが、必要な患者さんには外来でも対応しています。

（文章：作業療法士 小泉亜耶）



3) 言語聴覚士

言語聴覚士は、失語症（失読・失書・発語失行）、運動障害性構音障害・音声障害、嚥下障害のある患者さんを対象にリハビリテーション治療を行います。失語症とは、脳卒中や脳外傷などが原因で起こる後天的な言語の障害で、伝えたい内容を表現したり、意味を理解することが困難になる障害です。運動障害性構音障害とは、神経・筋系の病気によって、発声発語器官（肺・声帯・軟口蓋・舌・口唇・下顎など）に、運動のしにくさが生じて、話しことばが全体的に不明瞭になったりするなど、話しことばの運動面に限定された障害です。言語の障害は周囲の方に理解されにくいことも多く、話しにくいために話したくない、という気持ちにもなりやすいです。言語聴覚士は、ことばによるコミュニケーションがしにくくなった時に、自分らしい生活ができるよう支援します。一方、摂食嚥下（えんげ＝飲み込むこと）障害とは、食べ物や飲み物が口からこぼれる、うまく飲み込めない、むせる、といった飲み込みの障害です。リハビリテーション科医師とともに嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査を行い、患者さん一人ひとりの症状や発生メカニズムを把握し、それに対応したプログラムを組み立ててリハビリを行います。このように言語聴覚士は「ことばと食べることのリハビリ」を担当しています。

（文章：言語聴覚士 山本悦子）



臨床工学部は現在 中元秀友 臨床工学部部長のもとで、現在36名の臨床工学技師が業務にあたっています。今回は中元部長の許可のもと、現場の責任者の樺澤が臨床工学部の業務をご案内いたします。

私たち臨床工学技士は聞きなれない方も多いかと思いますが、簡単に説明いたします。病院では医療機器がたくさん使用され、重症の場合はベッドサイドで生体情報（心電図、血圧、呼吸など）を同時観察するモニター、点滴を調節する輸液ポンプ、身近なものでは指に挟むだけで血液中酸素の割合を測るパルスオキシメータなど様々な機器が使用されます。臨床工学技士は医師の指示下に**人工呼吸器を始めとする生命維持管理装置とよばれる機器の操作および保守管理などを行う職種**ですが、現在、主に4つの部門（血液浄化、機器管理、内視鏡、病院管理）での業務にあたり、医学と工学の知識をかねそなえ医療機器を熟知した臨床工学技士は、さまざまな分野でより満足度の高い医療を提供できるよう力を発揮してまいります。

臨床工学部ご紹介

ご挨拶



臨床工学部 課長補佐
樺澤 寛二

業務紹介

【内視鏡部門】

内視鏡センターが2016年3月に東館に開設されると共に臨床工学技士が従事することとなりました。内視鏡センターで使用される医療機器は、内視鏡システムを中心に、検査や治療に使用する軟性内視鏡や電気手術器、内視鏡を洗浄するための各種洗浄装置など多岐にわたります。その中で臨床工学技士は、医療機器の管理業務だけでなく、**検査や治療領域の介助業務**も行い、医師や看護師など他職種と連携しながら、患者さんにとって最善な医療を提供できるよう業務に従事しています。現在、3名の臨床工学技士が内視鏡業務に携わっており、日本消化器内視鏡技師認定と内視鏡関連専門臨床工学技士といった認定資格を取得し、日々研鑽しながら、安心して安全な内視鏡診療をサポートできるよう努めております



【血液浄化部門】

血液浄化ユニットではご自宅から通院される方に治療を行う外来フロアと入院されている方に対応するフロアに合わせて**45台の透析装置を設置**しており、その保有台数は全国の大学病院の中でもトップクラスです。おもに腎臓の機能が低下した、いわゆる慢性腎臓病の方に対して血液透析・人工腎臓といわれる血液浄化療法を安心かつ安全に治療を提供できるよう、医師・看護師と共に私たち臨床工学技士は**清浄度の高い透析液の水質管理、血液浄化装置の保守点検、透析治療に欠かせない治療技術の実施**を行っています。また、術後や夜間救急



などにも対応できるよう 24 時間 365 日にわたって、持続的腎代替療法や血漿交換療法などの特殊な血液浄化療法も実施しており、血液透析を含めて年間 2 万件を超える治療件数を支えられるよう、技術提供に努めています。

【機器管理・NICU・手術室部門】

病院内では、患者さんの診断や治療に数多くの医療機器が使用されています。それらの医療機器（約 3500 台）を、一元管理し安心かつ安全な治療が提供できるように努めています。主な業務場所は、中央機材室、手術室、ICU、NICU などとなっています。〈機器管理業務〉①終業点検：使用した機器の外装及び動作の確認を行います。点検前の機器の清拭を行うことにより感染対策の一端を担っています。②定期点検：機器の添付文書に基づき保守点検計画書を策定し、機能および性能点検を行うことにより故障や不調を早期発見できるように努めています。③故障点検・院内修理：故障状況を確認してメーカーによる点検修理が必要か判断しています。また、私たちが機器の部品交換などの修理も行っています。〈臨床支援〉①医療機器使用における研修会：安全使用に際しての技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関しての研修会を開催しています。②人工呼吸器巡回：病棟で使用している人工呼吸器の稼働状況や動作状況を確認し使用状況の安全確認を行っています。③セットアップ、不具合対応：医師、看護師などで解決困難な場合に病棟および治療の向き対応を行います。④多職種カンファレンス：ICU や HCU のカンファレンスに参加し機器の特性を活かした提案をしています。

【病院管理・チーム医療部門】

臨床工学技士は、医療機器の管理だけでなく病院の中で幅広く活動しています。

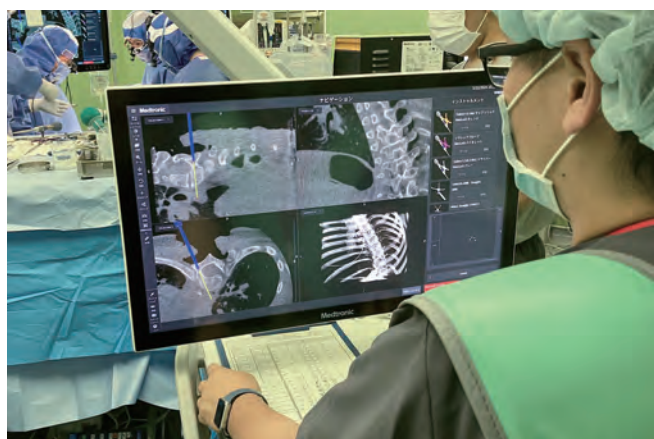
当院は、全国に先駆けて医療安全管理部門に臨床工学技士を配置しました。インシデントの分析から事故を未然に防ぎ、**病院全体の医療安全を確保**しています。

医療機器の治験・製造販売後調査にも臨床工学技士を配置し、将来のより良い医療を開発するため、**倫理や研究のルールが遵守されているか確認し、研究者の支援**を行っています。



このように、患者さんからは直接目に触れない場所でも、臨床工学技士は病院管理の面から患者さんの安全と安心を支えています。

また、呼吸療法サポートチーム（RST）や院内迅速対応チーム（RRT）といった多職種チームの一員としても活動しており、呼吸状態に合わせた人工呼吸器の適切な使用や、状態が悪化する前の予兆を捉えた早期の治療介入などを行っています。チームの中で、臨床工学技士の視点から患者さんの状態把握や治療の提案を行い、より質の高い医療が提供できるよう努めています。



職員紹介

【新人】 町田 結（2024 年入職）



機械の先の患者さんの状態を評価し、あらゆる角度の視点から物事を捉えられる臨床工学技士として業務に携わりたいと考えます。

当院での臨床実習時、治療に対する臨床工学技士の介入度が非常に高く、多職種連携を通して患者さんに高度な医療を届ける様子に感銘を受け、私も同じ場で働きたいと強く感じました。また、様々な症例があり急性期から慢性期まで幅広く経験を積めること、研究や教育の場でも活躍できることは、自身の考え方や価値観を広げ、患者さんにより高度な医療を提供できる源になると考えました。新人として様々な領域で経験を積んだ後に専門性を磨き、**信頼される医療機器のスペシャリスト**になりたいと考え、当院を志望いたしました。20代のうちに貪欲にスキルと知識を習得し臨床研究や教育にも力を入れていきます。また臨床実習や見学时、業務に対するやりがいや愛情をお話してくださった先輩方は本当に輝いており、埼玉医科大学の理念である「限りなき愛」を感じました。その際感じた先輩方に対する憧れをいつかは私が抱いてもらえるよう、Your Happiness is Our Happiness の想いを大切に日々研鑽して参ります。



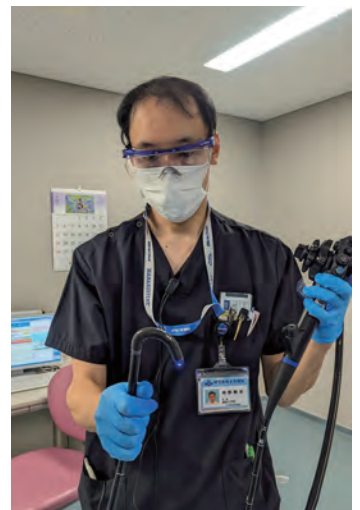
【先輩技士】 神野 剛史（2007 年入職） 内視鏡関連専門臨床工学技士・消化器内視鏡技師・小腸カプセル内視鏡読影支援技師・3学会合同呼吸療法認定士



私が入職した2007年は、埼玉医科大学国際医療センターが開院された年でした。入職当初は、わからないことだらけで、取扱説明書とにらめっこしながら、働いていた記憶があります。そんな中でも先輩方の指導により、知識と技術を習得しながら、日々の業務を通じて経験を積むことで、少しずつ臨床工学技士として働く自信がついていきました。

医療機器管理業務、手術室業務を経て、現在は内視鏡業務を主として従事しています。内視鏡業務では、医師や看護師と連携して、患者さんのために最適な検査・治療環境が提供できるよう心掛けており、医療機器の不具合を改善した際に医師からの「これで検査が続けられる、助かったよ」との声かけや、検査終了後に患者さんから「安心して検査が受けられた、ありがとう」と労いの言葉をいただくと、**医療機器を通して医療に貢献できている**実感が湧き、やりがいを感じることができます。

質の高い医療の提供と今後の内視鏡業務の人材育成に携わっていききたいとの思いから、指導的立場で専門的治療の対応ができる能力を有する内視鏡関連専門臨床工学技士やその他の資格を取得しました。取得した資格を活用し、患者さんにとって安心して安全な医療機器が使用できる環境を提供できるよう、今後も研鑽を積んで参りたいと思います。



患者さん・ご家族へ

医療機器がいつでも安心して使用できるよう院内全て一元的に保守点検を行い、安全性確保と有効性維持にも貢献してまいります。もし身近で使用されている装置で不明な点がありましたら現場スタッフにご相談ください。

栄養部紹介



栄養部 部長
平野 孝則

栄養部は「満足度の高い医療を支える栄養管理に努めます」を基本理念に、食事サービス部門と臨床栄養部門を担当しています。

食事サービス部門は、**献立作成から調理、配膳に至るまで直営で運営**しています。経験豊富な職員が適材適所でチームワークを重視し、安心・安全で美味しい食事の提供や、食品ロスの軽減に努めています。

臨床栄養部門では、各病棟に専従をはじめとした管理栄養士を配置し、**患者さんに寄り添った栄養管理・食事指導**を行います。外来栄養指導や各種栄養教室では患者さんに応じた実践可能な栄養・食事支援に努めています。チーム医療では、医師をはじめ多職種と協働し専門性を生かした活動を行い、栄養状態リスク者に対し治療の根源である適切な栄養治療を実施することで早期の栄養改善に寄与しております。これからも患者さんに「食事が楽しみ」と言ってもらえるよう、スタッフ一同努力してまいりますので宜しくお願い申し上げます。

業務紹介

厨房業務、有料メニュー

当院で提供する病院食は、西館地下1階にある**栄養部内厨房で調理・配膳**を行っています。病院食は安心・安全が第一になりますので、衛生面に於いて安全性の高い「クックチル」というシステムを用い、調理師が毎日調理を行っています。「クックチル」とは一度加熱調理した料理を急速冷却して3℃以下で保存し、提供前に再加熱をするという調理システムです。病院食は「薄味」で「美味しくない」という印象をお持ちの方も多いですが、「クックチル」システムによる冷却・再加熱により、煮物等は食材に味が染み込み、少しの調味料でも美味しく召し上がっていただけるよう工夫しています。



献立作成

入院中の食事は厚生労働省が定める「日本人の食事摂取基準」を基に、**主食・主菜・副菜を揃えた栄養バランスが整うよう献立作成**を行っています。旬の地元食材を使用し、季節に合わせた献立になるよう工夫しています。食事のメインとなる主菜は肉・魚・卵・大豆製品を偏りなく使用し和洋中の調理法・味付けを取り入れ、野菜は1日350g以上摂取できるよう煮物や和え物等毎食2品程度を含む献立にしています。正月のお節料理やひな祭りのちらし寿司等、季節に合わせた行事食も提供し、少しでも入院中の楽しみとなるよう日々メニューを考えています。



病棟栄養管理

入院患者さんの栄養状態を改善するため、管理栄養士が各病棟に伺い、**入院から退院まで患者さんの栄養をサポート**しています。摂取状況を確認し、病態に応じた栄養管理を通し、直営である食事サービス部門と綿密な連携をとりながら、患者さんに適した食事提供に繋がっています。また、入院中だけでなく退院後を見据えた栄養指導も随時行っています。



栄養指導

当院の栄養指導は、「個人に合わせた栄養指導」を心掛けております。

患者さんの生活スタイル、食事の環境は様々です。科学的根拠に基づきながら、**患者さんの食の課題を確認し、実践可能なプランの提案**を行っています。



チーム医療

栄養に関する専門的な知識を活かし、様々な**チーム医療に参加**しています。多職種と連携しながら、栄養改善に努めています。

現在、管理栄養士が参加しているチーム医療

- ・ 栄養サポートチーム ・ ICU（早期栄養介入管理） ・ 緩和ケアチーム
- ・ 呼吸器ケアチーム ・ 褥瘡対策チーム など



職員紹介

【糖尿病療養指導士】

波田 祐生子（2004年入職）



健康を食事で守りたいと思い管理栄養士を目指し、病院という職場を選択しました。糖尿病で治療している人が身近にいたこともあり、大学での研究も糖尿病を選択、入職後すぐに糖尿病サポートチームに配属されたこともあり、この資格を取得しました。大学病院で働くことで、新しい治療について勉強する機会に恵まれ、知識が増えることももちろんですが、栄養相談では患者さんから学ぶことが多くあります。食生活を聞くことで、**新しい調理方法や料理等、様々なことを学ぶ機会**があり、興味の尽きない楽しい仕事です。

【NST 専門療法士】

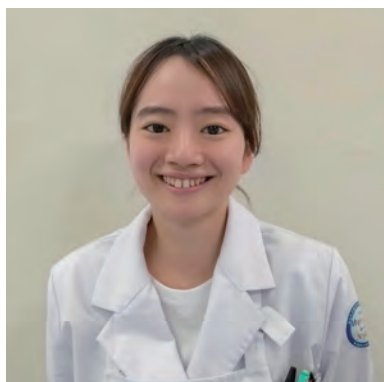
大谷 清香（2015 年入職）



あらゆる病態に対応できる管理栄養士になりたいと思い、入職2年目からNSTのメンバーとして活動しています。これまで様々な症例に出会い、多種多様な栄養療法を経験しました。この経験を何か形にしたいと思い、資格取得を目指しました。NSTの最大の魅力は**多職種で協力して栄養管理が出来る**点です。栄養管理に難渋する症例でも薬剤、点滴、血液検査、内科・外科的な要素など色々な視点から解決策を見出すことが出来ます。重症で運ばれて来た患者が食事を摂れるまでに回復し、栄養状態が改善することで治療に寄与できたとやりがいを感じます。

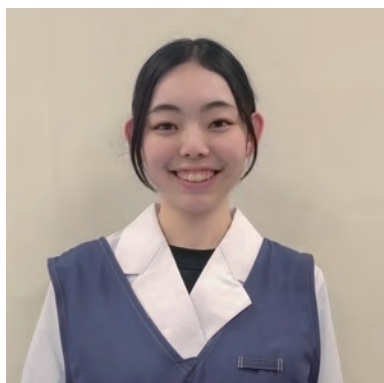
新入職員紹介

笠原 麗（2024 年入職）



私自身食えることが好きなので、食に関わる仕事を探す中で**食を通して人の役に立てる仕事**に就こうと考え管理栄養士を目指しました。現在は、厨房で患者さんに提供する食事の配膳業務を行っています。食事は治療の1つであるため、配膳ミスが無いように気をつけています。また時間の管理が重要なので時間内に業務を終わらせられるように努力しています。慣れないことも多く大変ですが、食を通して治療に貢献できるように努めていきます。

黒田 亜聖（2024 年入職）



管理栄養士を目指したきっかけは、祖父が肝臓の病気に罹り、祖母が**食事を管理している姿を見て、私も力になりたい**と思ったことです。現在私は栄養部で食事の配膳を行っています。覚えることが多く大変ですが、先輩方には丁寧な指導をいただき、とても感謝しております。まだまだ経験が浅く、ご迷惑をおかけすると思いますが、1日でも早く戦力になれるよう頑張ります。

ワゴン販売サービスのお知らせ

10:00～12:00

※各病棟に到着しましたら、アナウンス致します。
※お支払いは現金のみとなります。

販売スケジュール	月	火	水	木	金	土
本館、西館、東館	●		●		●	
南館		●		●		●

5号館売店(株)ウエルフェア

年中無休

平日・土曜 8:30-18:00
日曜・祝日 11:00-17:00
TEL 049-276-1571

各病棟デイルーム
にて販売しております。



アスリート通信

埼玉医科大学グループ
アスリートクラブ

東日本実業団 陸上選手権

埼玉医科大学アスリートクラブ
(<http://www.smu-athlete.jp>)

第66回 東日本実業団陸上選手権

令和6年5月18日～19日にかけて第66回 東日本実業団陸上選手権が熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催されました。アスリートクラブからは男女合わせて13名が出場し、自己記録更新や個々の目標のために全力を尽くしました。その中でも**男子3000M 障害の吉田選手、中園選手、女子3000M 障害の宮内選手の3名は全員3位以内**の大健闘を見せました！中園選手は前日におこなわれた1500Mでも3分47秒97の自己記録をマークしており、今年の駅伝でも活躍が期待されます。

今後は男子、女子ともに6月の日本選手権や夏の記録会に向けて練習を積んで行きます。今後ともアスリートクラブの応援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



5000mに出場した伊東選手・飯島選手



3000m 障害で3位に入賞した宮内選手



1500mに出場した倉田選手



3000m 障害で2位、3位に入賞した中園選手・吉田選手

—基本理念— 当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心で質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心で質の高い医療を受ける権利

3. ご自分の希望を述べる権利

4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

外来受診のご案内

診察時間 月曜～土曜 9:00～17:00

受付時間 月曜～土曜 8:30～17:00（初診で予約の無い方 8:30～11:00）

※紹介状をお持ちの方は、事前に予約センターで電話予約をしたうえでご来院ください。

予約センター 049-276-1179（8:30～17:00 日曜祝日除く）

新型コロナウイルス感染症に対する対応

新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し、医療機関では高齢者など重症化リスクの高い人たちが集まるため、施設内において感染が広がらないよう対策を続けていくことが求められています。

来院される際には今まで通り**手指衛生の実施**、院内では常に**マスク着用**をお願い致します。

最新の情報を元に、より良い感染対策を考え、患者さんに安心できる医療を提供できるようにこれからも取り組んでまいります。

～編集後記～

6月14日は今年初の猛暑日予報でした。毛呂山キャンパスの入り口から写真を撮ると、緑色の芝生と青色の空できれいなコラボレーションとなりました。

また写真内にある1ビル・2ビルの入り口も今年度より出入りが可能となりました。徐々に日常を取り戻しつつある面もございますが、引き続き感染対策にはご協力いただき、適宜水分補給を欠かさないようにお願いいたします。



外来駐車場のご案内



◀白い看板が目印です

埼玉医科大学病院ニュース 第79号

発行日 令和6年7月1日
 発行責任者 病院長 篠塚 望
 編集発行 埼玉医科大学病院 病院広報戦略室
 TEL 049 (276) 1121 FAX 049 (294) 8222
www.saitama-med.ac.jp/hospital/index.html

